

評価結果表（保育所版）

なかよし認定こども園

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。

1	I-1-(1)-①	評価
理念、基本方針が明文化され周知が図られている。		b
評価コメント	理念と基本方針は年度初めに周知されているが、年度途中の整合性確認が課題として認識しており、その取り組みが行われることを期待したい。	

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。

2	I-2-(1)-①	評価
事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。		b
評価コメント	地域の出生率低下で入園数減少を見込み、系列園統合も検討している。一方で財務分析の不足が課題であり、さらなる分析に向け取り組みが待たれる。	

3	I-2-(1)-②	評価
経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。		b
評価コメント	入園数減少が続いており、運営継続へ向け今後は新たな福祉ニーズの把握などについて具体的に検討することが待たれる。	

I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。

4	I-3-(1)-①	評価
中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。		c
評価コメント	入園減少で現状に合う計画が作れず、新たなニーズを踏まえた計画策定が必要と判断している。	

5	I-3-(1)-②	評価
中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。		c
評価コメント	現状に即した中長期計画がなく、単年度の計画はそれ以前の計画に沿って策定している。園の保育内容等と整合性を付けるように人材育成中心の計画を見直し評価体制の導入が必要である。	

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。

6	I-3-(2)-①	評価
事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。		b
評価コメント	組織的取り組みが管理職に偏っている。今後はそれ以外の職員も専門分野を活かして、事業計画策定から評価・見直しまでの一連の取組みについて、参加するように努めていただきたい。	

7	I-3-(2)-②	評価
事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。		b
評価コメント	事業計画については、入園前や年度末説明会、園だより等で周知し、意見も収集しているが、今後は全体計画を整備し、説明体制の充実が期待される。	

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

8	I-4-(1)-①	評価
保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。		b
評価コメント	保育の質向上の取組は乳児部会や発達支援部会など5つの部会で取組んでいることは評価できる。今後は部会だけに留まらず職員全体に波及する仕組みづくりが待たれる。	

9	I-4-(1)-②	評価
評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。		b
評価コメント	職員個人は、年2回の自己評価を実施しているが、園全体の評価は管理職のみである。今後は、職員参加による自己評価体制の充実が求められる。	

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。

10	II-1-(1)-①	評価
施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。		b
評価コメント	施設長は保育運営部会に参加するなどの役割を明確化しており、今後は有事における事業継続計画における主導的役割と不在時の体制整備が期待される。	

11	Ⅱ-1-(1)-②	評価
遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。		b
評価コメント	遵守すべき法令の最新情報は、把握・周知している。一方でその内容について具体的なことや専門的なことを学ぶ機会が少ないとの認識があり、専門的理解を深める研修への参加が望まれる。	

Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。

12	Ⅱ-1-(2)-①	評価
保育の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。		a
評価コメント	園長は、現場を直接確認し把握に努めている。またクラス会議で保育実践や保育計画の立案などを指導し、評価反省等も行っている。さらに研修機会を提供して育成にも力を入れている。	

13	Ⅱ-1-(2)-②	評価
経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。		b
評価コメント	DXで業務効率化を進めつつ、財務改善に努め、今後は全職員で経営合理化を進めることが期待される。	

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

14	Ⅱ-2-(1)-①	評価
必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。		b
評価コメント	入園定員を引き下げたことで新規採用はない。そのため育成と定着に注力しつつ、今後は新たな事業に対応できるよう職員がスキルや知識を習得することの検討することが求められる。	

15	Ⅱ-2-(1)-②	評価
総合的な人事管理が行われている。		b
評価コメント	法人としての期待する職員像は明確にして職員に周知している。また処遇を整備し育成も進めてはいるが、将来像提示には丁寧な対応が求められる。	

Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

16	Ⅱ-2-(2)-①	評価
職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。		a
評価コメント	就業状況や意向の把握は個別面談などで一人ひとりの状況を把握し、また早くからDX導入に取組み業務の効率化などで働きやすさを高め、柔軟な勤務への配慮で定着を促進している。	

Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

17	Ⅱ-2-(3)-①	評価
職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。		b
評価コメント	職員の育成は、期待する職員像を明確にし、また育成体制を整えている。一方で、経験年数などによる目標項目や目標水準の設定が曖昧で、達成を共有できる仕組みづくりが求められる。	

18	Ⅱ-2-(3)-②	評価
職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。		a
評価コメント	キャリアに応じた研修機会の提供に関する体制が整えられており、それと内部研修として5つの専門部会を設け2カ月に1回開き勉強し、その結果を職員会議などで全職員で共有している。	

19	Ⅱ-2-(3)-③	評価
職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。		a
評価コメント	適正に応じた研修提供に加え、自主的な研修等にも積極的に参加できるように配慮している。また保育内容の専門研修に関しては全員の取得資格の機会を確保している。	

Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

20	Ⅱ-2-(4)-①	評価
実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。		b
評価コメント	実習生に対しては、基本方針をつくり、それに基づく受入れマニュアルを用意し対応している。一方、指導者が最新情報を得る研修機会の確保が課題となっていて、今後の取組が待たれる。	

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

21	Ⅱ-3-(1)-①	評価
運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。		b
評価コメント	情報公開はSNSでの情報開示特にWAMの計算書類及び現況報告書ならびにここdeサーチを活用している。一方で、園のホームページ更新体制に課題があり、広報改善への取組が求められる。	

22	Ⅱ-3-(1)-②	評価
公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。		b
評価コメント	財務面や運営状況については、経理規定に基づき外部の会計事務所による指導を受け適正に運営されている。しかし、未開示項目の内容や公表の是非について検討が求められる。	

II-4 地域との交流、地域貢献

II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。

23	II-4-(1)-①	評価
子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。		b
評価コメント	隣接する地域子育て支援センターや系列の学童保育など関連施設と連携をしているが、地域交流の縮小が課題で、新たな交流機会の検討が求められる。	

24	II-4-(1)-②	評価
ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。		b
評価コメント	体験学習は、地元の中高生の受入れを学校と協力して行っており、受入れ体制を整えている。他方、ボランティアの受入れは、保育の魅力を伝える観点で受入れを模索している。	

II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。

25	II-4-(2)-①	評価
保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。		b
評価コメント	要保護児童対応は定期的に連絡会議に参加して市役所・児童相談所等と連携を取っている。それ以外では連携が無く、連携する場を広げる検討が求められる。	

II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

26	II-4-(3)-①	評価
地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。		b
評価コメント	隣接する地域子育て支援センターと協同して、育児相談などの取組をしている。また、園庭開放も行っている。しかし、それ以外での連携が弱く地域ニーズ把握の強化が求められる。	

27	II-4-(3)-②	評価
地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。		c
評価コメント	地域との交流が祭りへの参加など限られているため、限定的で福祉ニーズ把握が不足しており、行政や公的団体との協議の場に出向いて貢献する取組につなげることが期待される。	

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。

28	Ⅲ-1-(1)-①	評価
子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。		b
評価コメント	人権を尊重する心について、園の理念や方針を入園のしおりにて提示している。また保育所職員ハンドブックを使い研修を行っている。今後は倫理綱領の整備と評価体制の充実が望まれる。	

29	Ⅲ-1-(1)-②	評価
子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。		b
評価コメント	プライバシーの保護が必要な場面で配慮すべき内容は徹底しているが、外部の意見を踏まえた検証とこれまでとは別に配慮すべき場面や場所がないか、さらなる改善が期待される。	

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

30	Ⅲ-1-(2)-①	評価
利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。		b
評価コメント	入園のしおりは、方針や特色、入園後の生活など色刷りで示したり、図や表などを用いて見やすく理解しやすい工夫も行っていた。他方、公共施設等で周知する資料の常設を検討されたい。	

31	Ⅲ-1-(2)-②	評価
保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。		b
評価コメント	入園時や新年度の入園説明会にて、重要事項などをわかりやすく説明し、同意を得ている。変更時も都度、内容を説明し、特別な事情にも柔軟に対応している。	

32	Ⅲ-1-(2)-③	評価
保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。		b
評価コメント	保育所終了後の相談できる窓口について在園児がいれば対応しているが、在園児のいない家庭への相談対応手段が未整備で、支援センターの紹介や児童要録送付の検討が求められる。	

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。

33	Ⅲ-1-(3)-①	評価
利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。		b
評価コメント	アンケートや個別面談等で、園利用の満足度を把握するようにしている。また子育て支援部会の担当が対応する場合もある。今後は保護者を交えて確認する仕組みについて検討が待たれる。	

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	評価 b
評価コメント	苦情解決は、第三者委員の設置など整備されている。また解決内容の公表はケースごとに判断しているが、今回の利用者調査では、「どちらでもない」が半数を超えており、苦情から解決までの説明の必要を認める。	

35	Ⅲ-1-(4)-② 苦情解決の仕組みは園内の目につきやすい場所に掲示し保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	評価 b
評価コメント	入園のしおりや重要事項証明書にて、相談・意見について項目を記載し、苦情解決の仕組みも掲示している。面談専用の部屋が無いので、プライバシーを守れるよう、多目的室を使うなど配慮している。	

36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	評価 b
評価コメント	相談や意見については検討した内容や対策について迅速な回答を心がけケースにより見直しにもつないでいる。今後は内容の公表についての園の方針に理解を求める取り組みが待たれる。	

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。

37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	評価 b
評価コメント	安心・安全専門部会を中心に危機管理に取り組んでいる。安全点検やヒヤリハットマップの掲示などで職員は確認と認識をしているが、事故記録の標準化が未整備でその改善が待たれる。	

38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	評価 b
評価コメント	対策はマニュアルを用意し、園内の消毒や衛生面の対応を徹底し、発生した場合はメールや掲示版で周知している。一方で体制作りが十分でないとの認識があり見直しが望まれる。	

39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	評価 b
評価コメント	川の氾濫を経験しており災害への備えは様々な事態を想定し避難・誘導・通報・消火を実施している。防犯訓練も実施し、保護者への引き渡しなど緊急時対応への信頼も高い。	

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。

40	Ⅲ-2-(1)-①	評価
保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。		b
評価コメント	全体的な計画から長期・短期の指導計画を作成し園児管理システムで発達の見通しをもって個別支援が行われ、導入する保育メソッドの運用管理や人権への配慮も確認する仕組みがある。	

41	Ⅲ-2-(1)-②	評価
標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。		b
評価コメント	全体的な計画からの指導計画と実施方法が標準の方法と合致しているかの検証や見直しについては月に一度行っている。しかし質の検討は十分でなく組織的評価の強化が期待される。	

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。

42	Ⅲ-2-(2)-①	評価
アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。		b
評価コメント	導計画を策定しPDCAサイクルで評価や見直しを行い、配慮が必要な児童の支援体制は整っているが、アセスメント自体は手法が整っておらず管理者と職員の取組が必要である。	

43	Ⅲ-2-(2)-②	評価
定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。		b
評価コメント	指導計画は、月1日は事務の日を設け、必要により指導計画の変更や修正をしている。ただし短期計画の緊急な変更については計画に拠らない活動が確認され、ルール化が必要である。	

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。

44	Ⅲ-2-(3)-①	評価
子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。		b
評価コメント	指導計画から保育活動記録また児童個別の発達チェックや配慮事項等の管理システムを導入している。一方で配慮が必要な児童の個別指導計画はその仕組みを備えることを期待したい。	

45	Ⅲ-2-(3)-②	評価
子どもに関する記録の管理体制が確立している。		b
評価コメント	個人情報については、同意書を取り、情報管理を堅牢な管理体制も含め対応している。ただ園では把握できていない事例については他園の取組を参考にした学習機会の充実が求められる。	

A-1-(1) 全体的な計画の作成

A①	A-1-(1)-①	評価
保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。		b
評価コメント	月1日は、事務の日が設けられており、全体的な計画を作成したり、事務作業をしている。今後は、さらに地域や家庭の状況を踏まえた計画作成に期待したい。	

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

A②	A-1-(2)-①	評価
生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。		b
評価コメント	温度計湿度計はこどもが過ごす環境（高さ）で把握する必要がある、園の独自の基準を設ける必要がある。また、震災等も考慮し、落下防止の工夫や検討を行う必要がある。	

A③	A-1-(2)-②	評価
一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。		b
評価コメント	子どもの好みや個性を把握し、子どもが安心して関わられる保育者であるよう、努力されている。一方で、方言やせかす言葉をつい使ってしまうことに気づいており、改善策の検討が望まれる。	

A④	A-1-(2)-③	評価
子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。		b
評価コメント	発達過程に応じた基本的な生活習慣（口腔衛生、更衣手順など）を身に着ける大切さについて、子どもが理解、習得し、自発的に身の回りのことのできるよう、家庭と一緒に取り組まれることを望む。	

A⑤	A-1-(2)-④	評価
子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。		b
評価コメント	遊びを通して、ルールを学び、社会性を養い、成長過程に応じた遊びと体力づくりができる仕組みづくりができています。地域の人たちに接する機会、社会体験、様々な表現活動体験については、今後の取り組みに期待したい。	

A⑥	A-1-(2)-⑤	評価
乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b
評価コメント	少子化の影響か、調査日現在、0歳児は3名在籍で保育者1人の配置になっており、発達過程に応じた保育を行うことが、十分にできない状況下にあることに気づいている。今後の対策が待たれる。	

A⑦	A-1-(2)-⑥	評価
3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b
評価コメント	人員配置基準を上回る職員配置となっており、かかわりができている。ただ、様々な年齢の子供や保育者以外の大人と関わる機会は少なく、課題と認識している。また個別指導計画の作成については、今後の取り組みに期待したい。	

A⑧	A-1-(2)-⑦	評価
3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b
評価コメント	人員配置基準を上回る職員配置となっており、十分なかかわりができている。ただ、発達障害が疑われる子供についての取組みが不十分ではないかと気づいており、今後の取り組みに期待したい。	

A⑨	A-1-(2)-⑧	評価
障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b
評価コメント	現在、身体障がい児は在園していない。今後、あらゆる障がいのある児についての知識習得、周囲の理解と配慮（ハード、ソフト両面のバリアフリー）が園全体で共有できる取り組みを期待する。	

A⑩	A-1-(2)-⑨	評価
それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b
評価コメント	特に長時間保育になる児については、ゆっくりした遊びができるよう疲労感に配慮している。一方、これまで以上の連絡や連携を希望される保護者もあるので、保護者の意見聴取の方法やそれを反映していく仕組み作りを望む。	

A⑪	A-1-(2)-⑩	評価
小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。		b
評価コメント	小学校の教員と保育士等の連携は図られている。しかし、保護者が小学校入学後の生活についてイメージできるような取り組みに関しては、今後期待したい。	

A-1-(3) 健康管理

A⑫	A-1-(3)-①	評価
子どもの健康管理を適切に行っている。		a
評価コメント	3歳未満時は1日3回の検温。気になる子はその都度検温。病気やけがに関しては、保護者と全職員で情報共有できるように、工夫してある。園児の既往歴を把握したり、午睡時はタイマーを使用し、SIDS予防を徹底している。	

A⑬	A-1-(3)-②	評価
健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。		b
評価コメント	検診結果は保護者に伝えて終了となっており、保育に反映できていないことに気づいている。コロナをきっかけに、園でのほみがきは中止し、食後のうがいもしていない。安全面、衛生面に配慮しながらの口腔衛生の取り組みを。	

A⑭	A-1-(3)-③	評価
アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。		b
評価コメント	現在、医師からの指示が必要な児はいない。「アレルギー対応ガイドライン」や慢性疾患等について、マニュアル化を望む。あらゆることを想定した対応について、全職員で取組まれることを期待する。	

A-1-(4) 食事

A⑮	A-1-(4)-①	評価
食事を楽しむことができるよう工夫をしている。		a
評価コメント	園庭にクラス単位で野菜やイモを栽培し、その食材を使って、クッキングの時間におやつを作っている。食育について、保護者アンケートからも高い評価が得られている。	

A⑯	A-1-(4)-②	評価
子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。		b
評価コメント	管理栄養士が調理員としての配置で、献立表は外部で作成したものを取り入れており変更することができない。子どもたちのリクエスト（主体性）や地域の食文化の理解を深めるための検討が必要。	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携

A⑰	A-2-(1)-①	評価
子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。		b
評価コメント	園と家庭との情報交換は連絡帳を活用しているが、家庭からの返信が少ない。送迎時や面談の機会を通して情報交換を図るように努めている。しかし保護者調査の結果では、もっと緊密な連携を希望する保護者もいる。	

A-2-(2) 保護者等の支援

A⑱	A-2-(2)-①	評価
保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。		b
評価コメント	気になる家庭には、声かけの機会を多くして、安心して子育てができるよう配慮している。園の記録はすべてICTを活用することで職員間の情報共有ができる。	

A⑲	A-2-(2)-②	評価
家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		b
評価コメント	マニュアルを充実させたり、研修の機会については少ない。園と家庭、さらには、地域を巻き込んで、「虐待を防止、権利養護」も含めた連携体制を整えていくことを期待する。	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

A⑳	A-3-(1)-①	評価
保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		b
評価コメント	保育計画や保育記録を通して、自らの保育実践の振り返りを行い、保育実践の改善や専門性をさらに向上するべく自己研鑽や学びあい、多職種協働の基盤強化に取り組まれない。	